

# 伝統文化の学習 一室町文化

—習得・活用・探究を取り入れて—

大阪市公立中学校教諭

## 1 はじめに（新学習指導要領との関連）

本稿は、帝国書院「中学生の歴史 初訂版」の「第3章3節いまにつながる生活・文化」の中世の伝統文化、とくに室町文化を中心とした授業展開例である。

新学習指導要領（平成20年告示）によると、歴史的分野における「1目標」の文化に関連した記述では「…現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる」となっており、「2内容」の「(1)歴史のとらえ方」イでは「…受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせ」、大項目「(3)中世の日本」の中項目イで「…禅宗の文化的な影響などを通して、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる」となっている。

つまり、中世の文化の学習に際しては、新学習指導要領の改訂の方針である「習得、活用、探究」を取り入れながら、伝統文化への関心を高め、学び方を身に付けさせ、現在と結びつくような授業づくりが求められていると思われる。

そこで、学習形態として対話や探究活動がしやすく共同で探究活動がしやすい班活動または小グループを取り入れた展開を考えてみたい。

## 2 単元のねらい

室町文化は、中国文化のとくに禅宗の文化の影響を受けながら日本全国に広がった文化である。担い手は当時の民衆や武家たちで、現在日本の生活文化や年中行事に直接つながった多様で豊富な内容をもっている。

この單元では、そのような伝統文化の関心を高め、それが生まれた社会を理解し、学び方を身につけることがねらいである。

そのために、一つひとつ特徴的な文化について習得・活用・探究する過程を追究し、鎌倉文化との比較や現代につながっている文化などが理解できるような学び方や取り組みの授業構成を提案する。

## 3 学習の展開

### ①導入

室町文化から、今に残る行事や食べ物をクイズ方式で生徒に発問し、興味関心を高める。

**問1** 次のことがらで室町時代に広がった行事や食べ物、関係のあるものを選んでみよう。

- ①蹴鞠    ②七夕    ③節句    ④盆踊り
- ⑤一日三回の食事    ⑥お伽草子
- ⑦歌舞伎踊り    ⑧納豆    ⑨そうめん
- ⑩とうふ    ⑪しょうゆ    ⑫牛鍋
- ⑬畳    ⑭生け花    ⑮床の間

答えあわせと簡単な解説をするが、室町時代と関係がない項目は簡単に指摘する。

ちなみに①蹴鞠は平安時代で、②～⑪までは室町時代に広がりを見せた。とくに大豆加工品は禅寺の食事との関係が深いので禅宗の影響を強調したい。⑫牛鍋は明治の文明開化からはじまった食べ物である。⑬～⑮は室町時代の住宅との関係が深い。



「中学生の歴史 初訂版」p.78 ③田植えと田楽

## ② 絵画史料の読み取り

当時の庶民の生活や様子を知るには絵画史料は大いに活用できる。絵画史料には多くの情報が描かれており、これを読み取る力は他の絵画史料にも応用することができる。そこで教科書に載っている「田植えと田楽」から、そこに描かれている様々な人物の動きや表情・道具などを読み取って、田楽とはどのようなものか、どのようなことを願ったものであるのか、またこれを描いた作者のねらいは何か、などを学習班で討議しながら探究・発表させる。



「中学校スタンダード 歴史資料」p.69

**問2** 教科書p.78の③を見て、それぞれ何をしているのだろう。また、作者はどのようなねらいがあって描いたのか、考えてみよう。  
答え：

生徒たちは「笑って踊っている…」「楽しく田植えができるように…」など、田植えの

作業を発言するだろう。その中で「豊作を願って…」「平和に過ごせますように…」などの読み取りをした発言があれば、どうしてそう読み取れたのか、その根拠は何かを考えるようにつなげて絵画の意味を探索して展開をしたい。そして多くの男女が共同作業していることから、惣村の存在や意義について今一度復習をしながら当時の社会構造についてまで広がれば、学習の深まりといえる。

その他、農民の服装も読み取れるのでそれにも気づかせたい。

絵画史料から情報を読み取るという方法は、時代を具体的に理解するには適しているので身につけたい学び方である。

## ③ 他の絵画と比較して見た水墨画

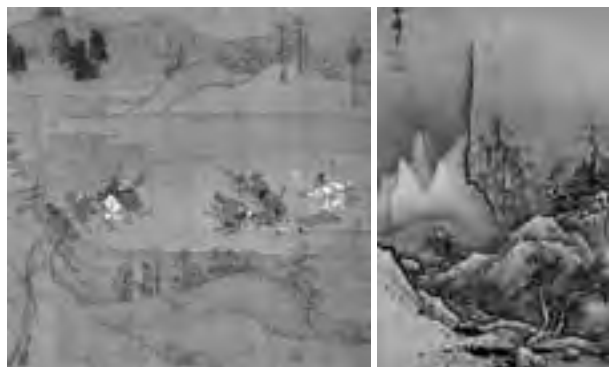
同じ絵画史料も、時代によって描き方がちがう。それらと比較することで文化の特色を明らかにできるような学習活動を行う。ただし、すでに、絵画史料の読み取りはしているので、ここでは簡単にすすめる。

**問3** 教科書p.59～59③で描かれている樹木や山の表現と比較して、雪舟が描いた「秋冬山水図」の特色を書きなさい。

答え：

教科書p.58～59の「一遍聖絵」は、鎌倉時

代の絵画である。これと水墨画の表現方法を比較して、その「違い」を確認し水墨画の特色を理解したい。またその背景を雪舟の禅僧としての歩みとともに簡単にふれる。



左：「中学生の歴史 初訂版」p.58 ③一遍聖絵  
右：「中学生の歴史 初訂版」p.79 ⑨雪舟の水墨画

#### ④お伽草子の展開を予想しよう

物語の内容をより理解するためには、物語を自分で想像・創作する方法も効果的である。これにより、物語の内容と当時の人々の考えや発想をより理解することができる。

たとえば、お伽草子の結末を班で考える。教科書に題名しか出ていない「一寸法師」の話を下のように途中まで紹介して、他のお伽草子との関連や共通性を考えて当時の人々の思いを理解していく（お伽草子の概要は、インターネットによって簡単に入手できる。絵画史料もある）。

昔々あるところにおじいさんとおばあさんが小さな男の子を育てておりました。背丈が一寸しかなかったので、一寸法師と名づけられました。

あるとき、一寸法師は京の都へ行ってみたくなって許してもらって家を出ました。京でお姫様がいるお屋敷においでしてもらうことになりました。そのお姫様がお参りの時に鬼が現れたので一寸法師が飛び出し（ ）。

めでたし、めでたし。

問4：（ ）を自由に書きなさい。

上記と教科書p.78の「浦島太郎」「物ぐさ太郎」の要約を読み、これら3つの話から当時の人々は、人生でどのような願いや考えを持っていたのか推測をしてまとめてみる。



「中学校スタンダード 歴史資料」  
p.69 物ぐさ太郎

#### ⑤現在に生きる文化



自宅の床の間



「中学生の歴史 初訂版」p.79 ⑤東求堂同仁齋

自宅の「床の間」の写真を準備する。そして最初に見せて「どこかで見たことがありますか」と聞いて自由に意見を出させる。生徒から「自分の家にも似たところがある」「田舎の家で見た」などの意見が出される。そして、次の発問をする。

問5 現代の「床の間」と教科書p.79⑤の書院造を比べて同じところを書きなさい。

答え：

「床の間」と教科書の東求堂同仁齋を比較して二つの同じところを書かせることで、現代のつながりを身近に知ることができる。答

えは、畳、明障子、付書院となるが、「床の間」の写真は、たとえば先生の自宅のものであると種明かしをするとちょっとした興味・関心を示す。現代の住宅の和室にある「床の間」が、室町時代の書院造の影響を強く受け、現在につながっていることを理解する。そして金閣・銀閣がそれぞれ鹿苑寺・慈照寺といわれ建物の構造に禅宗様があること、とくに銀閣は禅宗の強い影響を受けていることを強調する。



左：金閣の内部 右：銀閣のとなりの建物・東求堂同仁齋の内部 「中学校スタンダード 歴史資料」 p.68

また「生け花」も写真の「床の間」にあるので、同様に現在とのつながりに言及すれば、より強調できるであろう。

### ⑥禅宗を背景とした文化を理解する

帝国書院「歴史資料」 p.69の竜安寺の写真を使って、枯山水を味わいたい。

**問6** 竜安寺の石庭と教科書p.45④の貴族宅の庭と比較してその違いを書きなさい。

答え：

**問7** 石庭は何を表現しているか、またどのような人がつくったか調べてみよう。

答え：

答えは、池がない、草木がない、邸宅と庭がつながっている、庭の広がりがちがうなど、すぐに出てくるだろう。

枯山水とは、水や草木を使わず石と砂で造られた庭のことであると説明して、竜安寺の石庭は、大小15個の石と白砂で構成されていると確認する。そして、石と白砂で何を表現

した庭なのかを考えさせる（当然、少しレベルの高い問題なので答えはいろいろ出るだろうが、班で自由に判断させる）。



「中学校スタンダード 歴史資料」 p.69 竜安寺の石庭

また、なぜこのような庭が造られたのか、この庭をつくった人物が河原者という差別された人であったことを教科書p.74の「けがれと差別はどんな関係があるのだろうか」を読んで気づかせるようにしたい。

### ⑦地方への文化の広がりまとめ

室町時代の文化が応仁の乱以降、地方へ広がったことに教科書p.79「地域史」で注目をさせる。また、p.80～81の「歴史に挑戦！」に取り組み、中国と禅宗、貿易や留学を通しての、大陸文化のとのつながりや広がり気づかせたい。

## 4 おわりに

ややもすると文化の授業は単調になりやすい。そこで今回は、新学習指導要領の改訂の方針と趣旨にそっていくつかの取り組みパターンで授業案を示した。ただ内容が豊富なので一つひとつをていねいに組み込んでいくと時間確保が大きな課題となってしまう。

そこで、典型的な文化財を選択する必要があり、それを中心に班活動・小グループ活動による習得・活用・探究を取り入れた学習指導案を提示した。今後も、伝統文化の理解がより進むよう取り組んでいきたい。